



KUMAMOTO GREEN Rotary-Club



2013-
2014年度
テーマ

国際ロータリー 「ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を」 R.I.会長 ロンD・バートン

地区方針 「良き友を得てロータリーを学び奉仕を实践しよう」 R.I.2720地区 ガバナー 赤山 武興

熊本グリーンR.C. 「魅力あるクラブにしよう」 熊本グリーンR.C.会長 山下 隆生

■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：山下 隆生 ■幹事：河島 一夫 ■会報担当：長野 義文
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@io.ocn.ne.jp

国際ロータリー 第2720地区 熊本グリーンロータリー・クラブ週報

【2013年12月18日】

第1112回

2013-2014年度 第19回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

「我等の生業」(ロータリーソング)

来訪者紹介

- ★「しょうぶの里」施設長 長田 紀義 氏
- ★元グリーンRC合唱団講師 福嶋 由記さん

会長スピーチ (田中 純司 会長エレクト)



幹事報告 (河島 一夫 幹事)

報告事項(その他のロータリー関係)

①「ロータリー家族清掃活動・募金活動」ご参加のお礼が、松田ローターアクト地区代表より届いております。今までで1番参加者が多かったそうです。



参加された方々はお疲れ様でした。

②「第5回熊本中央RCチャリティゴルフコンペ」のお礼が届いております。大会当日は150名の参加があり、参加費の1部152,000円をチャリティとして、テレビ熊本と通じて、FNSチャリティキャンペーン2013年支援国のネパール連邦民主共和国へ寄付されたそうです。

■ 例会取止め・変更

<変更>

【熊本西RC】

12月24日(火)の例会を、年忘れ家族会のため、同日18:30より全日空ホテルニュースカイにて行います。

【熊本城東RC】

1月6日(月)の例会は、新春合同例会のため、1月8日(水)12:30より日航ホテル熊本にて行います。

【熊本グリーンRC】

1月6日(月)の例会は、新春合同例会のため、1月8日(水)12:30より日航ホテル熊本にて行います。

<取止め>

熊本東南RC 12月25日(水) 定款第6条第1節

熊本北RC 12月26日(木) 定款第6条第1節

熊本中央RC 12月27日(金) 定款第6条第1節

熊本城東RC 12月30日(月) 定款第6条第1節

*但し、当日サイン受付はありません。

(続く)

卓話
予定

- 12/16 「年忘れ家族会」(於:キャッスル 11F)※年次総会(例会中にあります)
- 12/23 祝日の為、例会休会(天皇誕生日の為、例会取り止め)
- 12/30 例会取り止め (定款第6条第1節に基づき)
- 1/8(水)「熊本市域RC新春合同例会」12:30～(日航ホテル)
- ※1/6(月)→1/8(水)に例会変更致します。

グリーン・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及びません。というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

下記の取止めた例会では、当日サイン受付はありません。

熊本グリーンRC 12月30日(月) 定款第6条第1節
 熊本南RC 12月30日(月) 定款第6条第1節
 熊本東RC 12月31日(火) 定款第6条第1節
 熊本北RC 12月30日(月) 慣例により
 熊本西南RC 1月2日(木) 慣例により
 熊本RC 1月3日(金) 慣例により
 熊本中央RC 1月3日(金) 慣例により

出席報告

(クラブ管理運営委員 葉 高源 会員)

	会員総数	24名	出席率
12月9日	出席免除会員数	0名	60.00%
	計算上会員数	25名	
	出席会員数	15名	
11月25日	前回の出席会員数	19名	76.00%
	メイクアップ数	0名	
	修正出席会員数	19名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
なし			

委員会報告

①「会員3分間スピーチ」
 ロータリーに入会にて感じた事、思い出等…
 報告者なし

②「地区創造的奉仕プロジェクトセミナー」報告
 報告者:上田 観一 奉仕プロジェクト委員長
 2013年12月8日(日)熊本保健科学大学にて13時からセミナーが始まりました。
 先に作守順子(宇土RC)地区創造的奉仕プロジェクト部門長の挨拶があり、赤山武興ガバナー(人吉中央RC)の挨拶がございました。
 RI第2720地区に於て、地区グローバル補助金が使われていない。国際的に使われるような地区にしていきたい。又、シドニー国際大会に是非参加してほしい。12月中頃までに手配され、RCからでも、自分達のツアーでも良いので企画して下さい。大会の開催期間は2014年6月1日～4日までという事でした。
 基調講演を本田光曠PG(熊本城東RC)より頂き、ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を「ロータ

リーに葉物無し」という題目でお話をされました。(詳しくは本日配布したA42頁の資料を参照して下さい)

始めに、ロータリーの目的について、これは「ロータリーの友」の中に第1から第4までの項目が書いてあります。ご確認ください。
 ロータリーの例会に出席して食事をして時間を費やすだけでなく、何か魅力的なものを探しクラブの役に立つ事を考えて欲しい。
 ロータリーは人づくりである。一生懸命やっている事を若い人に伝え、クラブを強化して欲しい。
 その後、地区の社会奉仕、国際奉仕、ブライダル委員会より事例発表がありました。

大分キャピタルRCの衛藤秀峰君からは、小・中学生に、お仕事紹介教室を実施した。職業の重要性、モチベーションのUPの話をして、自クラブ会員の職業の内容を話し、紹介した。又、大分南RCの曾根崎 壽君からは、老若男女の心の学校の講演会を高校生から70才まで参加して行った。講師に大谷和尚様に来て頂き、事業費59万円の内、40万を地区補助金を利用して開催し楽しい事業になった。と報告がありました。

最後に本田PGより、3年後の自分達はどうなっているか、皆様のクラブでしっかりと話し合う必要があるというお話がありました。

③「ロータリーの友」12月号の内容紹介
 報告者:江上 泰弘 クラブ広報委員長

④「福嶋由記さんのクリスマスディナーショー」のご案内
 報告者:福嶋由記さんと河島一夫幹事



「第2回 ほろニガ会」のご案内(福嶋さんのディナーショー)
 日時 平成25年12月24日(火)
 受付:18:30～
 ディナー:19:00～
 コンサート:20:00～
 場所 マリエール神水苑「アリアグレイス」
 参加費 「ほろニガ会」会員 3,000円
 ビジター 10,000円

その他の報告

「グリーンRC農園」での野菜収穫のお礼と施設の紹介

報 告 者 :
熊本市手をつなぐ育成会「しょうぶの里」
施設長 長田紀義 氏



先日のグリーンRC農園にて「しょうぶの里」の皆さんが、からいもや大根の収穫を昨年に引き続き行われました。そのお礼と「しょうぶの里」がどのような施設で、どのような活動をされているかを紹介して頂きました。

スマイル

荅 孝之 クラブ管理運営委員
(スマイル担当長)

- 「しょうぶの里」施設長 長田 紀義 氏
「いつもお世話になっております。本日はおじゃまします。」
- 田中 純司 君、河島 一夫 君
 - ①「1日1日と寒くなって参りました。お体に気を付けられて下さい。」
 - ②「しょうぶの里施設長の長田様と福嶋由記さん、ようこそいらっしゃいました。」
- 趙 健次 君
 - ①「河島会員の卓話よろしくお願ひします。」
 - ②「先日は昔の電話帳の事で大変お世話になりました。」
- 荒木 一之 君
「今日の河島会員の卓話楽しみにしています。」
- 栗山 義則 君、長野 義文 君、葉 高原 君、荅 孝之 君
 - ①「しょうぶの里の施設長の長田様いらっしゃいます。今後も知的障がい者の為に頑張って下さい。」
 - ②「福嶋由記さんいらっしゃいます。」
 - ③「河島さん本日の卓話楽しみにしています。」

3. 例会プログラム

司会:河島 一夫 会員



「松本 唯一先生の横顔」

本日は、松本唯一先生のことを話に参りました。私と、松本先生との関係は、最晩年の五年間ぐらいで、私ごときが先生のことを話す資格はないのですが、木下修様のご依頼を断りきれず、今、ここに立っています。

先生との一番の思い出は、私の結婚式で、乾杯の音頭をとってくれたことです。その前の祝辞の方々が大変長い挨拶でした。やっと乾杯まで来たかと思いましたが、先生の乾杯の挨拶がとても長く、一同起立したものの自ずから全員着席、多分、十分以上の挨拶でした。他には、ある日の夕方、電気が付かないからきて欲しいと、電話があり、何で私に電話してきたのか、いかない訳もいらず、島崎まで夕暮れ時にお伺いしたことを覚えています。グロス管がきれていたような記憶があり、電気がついて喜ばれた思い出がありますそんなたわいもないような先生との関係なのです。

先生は、大変な蔵書家でいらっしゃる私に私が店を手伝い始めた頃、よく来店されていました。私の父は、どちらかと申しますと国粋主義者でして、松本先生と話が合いました。そう言う訳で、本を買いに来られていました。古本屋のお客さんは、その主人と気が合わないならば、入店もせず、本も買わないものです。それを配達するのが、私の役目でした。行けば、奥さんが良くしていただいて、時には昼食を頂いた記憶も有ります。

私が、大学を卒業して、帰ってきたのが昭和52年の春でしたので、その時には、ご自宅の横に二階建ての立派な書庫がありました。教え子たちからのプレゼントだと、喜び自慢されていました。私は、その書庫内を自由に見ることを許されていたので、つい長居をしてしまうこともありました。地学の大きな洋書が多いのには、当時の私としては驚きでした。それに日露戦争関係の本が、ずらりと並んでいました。蘇峰先生の本も蒐めていらっしゃいました。亡くなられた後、その本は、県立図書館に寄贈されています。冊数として一万四

千冊余りだとのこと、地図も沢山お持ちでしたので、これも図書館に入っていると思います。収集と申しますと、岩石・鉱石の収集も大変なもので、世界中の岩石・鉱石類です。これは、熊本市立博物館に寄託されていましたが、北九州市立自然史博物館へ生前、寄贈なさいました。この岩石・鉱石類を熊本に留める事が出来なかったのは残念なことです。

では、これから先生の生涯を簡略に、お話しいたします。お手元に年譜をお配りしましたが、これは、「追憶松本唯一先生」の本からとったものです。それに沿って、話しますと明治25年、栃木のお生まれで、後、東京の第一高等学校を卒業ののち、東京帝国大学に進学されています。松本先生は、次男でして、長男が東京に進学しているの、家にこれ以上、経済的負担をかけられないと、諦めて、地元で教員を始めたばかりの時、長男が帰ってきて、東京に行くように進められ、その年の秋に上京、翌年の入試に辛うじて通ったという事が回顧録に書かれています。やっと通ったと先生は言われていますが、二年生と三年生では、首席だったとのこと、猛勉強をされたと書かれています。明治天皇崩御の際には、旗手(護国旗)を務められたのも名誉の一つと書かれています。その後、東京帝国大学地質学科に入学、首席で卒業され、恩賜の銀時計を賜っていらっやいます。その後、そのまま助手として、大学に留まられます。その時、各国の地質調査、アメリカに二年留学されています。帰国され、30歳の時、平井金三(きんざ)先生の二女鸞(らん)さんと結婚されています。平井先生は、安政6年生まれの方で、この先生を語るだけでも大変な先生でして、一時期、一高で教鞭をとられています。その時、松本先生は、尊敬の念を持たれたものと思います。松本先生は、平井先生の思想と似たところがあり、その二女さんを娶られたと思いました。平井先生については、ここでは話をいたしません、新渡戸稲造や内村鑑三等に肩を並べる先生です。その鸞夫人との間に四男三女七人の子供に恵まれます。その三女の東(あずま)さんが木下康さんの奥さん、修さんのお母さんです。

先生の生涯を話しますと、とても時間が足りませんので、エピソードを二三話して終わりたいと思います。

お住まいですが、島崎の百梅園跡に昭和30年に転居され、終の住処となります。細川重賢公から米田松洞がこの場所を賜り「四時園」と称した所です。幕末から明治期には、兼坂止水先生が私塾を開き、徳富蘇峰も、年少の頃、塾生として住み込み、勉強した処です。長命水という湧き水があるので有名です。

松本先生は、九州の火山帯の研究で世界的に有名な先生ですが、申し訳ありませんが、先生の専門部門の説明は出来ません。

まずエピソードで上げなければならないのは、松尾敬宇(よしとか)中佐とその母、松尾まつ刀自のことです。昭和39年4月から四ヶ月間、ニュージーランド・オーストラリアの地熱の調査に行かれる時に、八幡師友会から、シドニーの戦争資料館にある松尾中佐が乗っていた潜航艇を見てきて欲しい旨の依頼が発端になり、その後、昭和43年に松尾まつ刀自をシドニーに連れて行かれました。シドニーでは、大変な歓迎で、国賓並みの待遇だった事が、回顧録から分かります。刀自と中佐の姉と先生の旅費を捻出するのに、寄付を呼びかけられましたが、最初は、思うように集まらず、家土地を売ってでも、との思いのなか、約400万円の寄付金となったそうです。残ったお金で菊池神社に中佐の銅像を建立されました。

松尾中佐のことを簡略にお話しいたします。お手元の資料をご覧ください。

尚、この頃の昭和40年に「熊本県近代文化功労者」の顕彰状を県から受けられています。

次に、お話ししなければならないのは、北方領土と日露戦争のことです。先生は、日露戦争のことに大変詳しく、よく勉強されていました。それに伴い、千島列島四島のソ連の占領に大変憤慨されていて、そのために、日露関係史を詳しく研究され、いかに不法占拠されているかを、歴史事実に従って、講演されていました。また、乃木大将を大変尊敬されていましたし、よく研究されていました。ご自宅に、夫人の父が書かれた乃木大将ご夫妻の位牌を祀ってありました。これは、現在、健軍神社に祀ってあるとのことです。

NHKの鈴木健二氏が行っていた歴史番組で、日露戦争終結の時のロシアの軍人達との写真に写っていた乃木大将を間違えて、「この方が乃木大将」と指されたのを、丁度、見ておられて、すぐにNHKに間違いの電話をされましたが、何の釈明もないし、テレビでも間違ったことのコメントもなかったので、激怒され、再三に渡ってNHKに抗議をされたのは、私も知っていることです。後日、NHKから誤りに自宅までこられたそうですが、テレビにての鈴木健二氏よりの誤りがなかったのも、お許しにならなかったと聞いています。

他にも、天皇陛下が阿蘇に来られた折に、二度に渡ってご進講なされたことを誇りに思われていたこと、数多くの英文を含めての学術論文の話し、とても健脚だったこと、教え子から大変慕われ、それが、二階建ての書庫という形となったこと等、あげられます。

昭和55年に「勲二等瑞宝章」を受章されています。

その4年後、昭和59年1月20日にお亡くなりになりました。

話は付きませんが、今日の卓話を終わりたいと思います。ご静聴有難うございました。

2013～2014年度第3回熊本グリーンRC・ゴルフコンペ

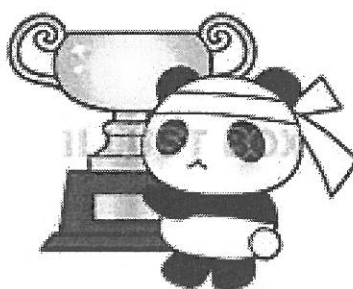
日時 2013年12月10日(火)

場所:城南CC スタート時9時38分スタート

名前	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET	順位	新HD
山下 佳介	50	55	105	19	86	4	
長野 義文	43	43	86	0	86	3	
木下 真秀	46	45	91				
河島 一夫	55	57	112	31	81	2	28
廣坂 彰雄	45	54	99	18	81	1	14
田中 純司	61	58	119	26	91	5	

ニアピンOUT	No.4		No.8	木下
ニアピンIN	No.11	木下	No.15	
ドラコンOUT	No.3	山下		
ドラコンIN	No.18	木下		
ドラコンIN	No.17	田中		

優勝 8,000円
 2位 5,000円
 3位 3,000円
 ニアピン 1,000円
 ドラコン 1,000円
 参加賞 1,000円



今回は、ビジター一人加わっての6名の寂しいコンペとなりました。前日の雨も上がり、思ったほどの寒さもなく、午後からは日差しもさしてきて、12月としてはゴルフ日和の日となった。スコアは、なかなか纏まらず、悪戦苦闘のゴルフであった。優勝は、廣坂会員。「スコアが悪いのに優勝とは。」との呟き。夜は、長野会員のお店「もっとも」での忘年会。こちらは、栗山会員、葉会員、趙会員、江上会員も加わり、大変盛り上がりの宴会となった。次回は、2月末か3月に行う予定。



大震災と日本のロータリー

日本は地震の多い国です。日本のロータリーの歴史には、大地震との関係が色濃く表れています。

東京ロータリークラブ（RC）の創立は1920年10月20日、大阪RCの創立は1922年11月17日です。関東大震災が発生したのは、1923年9月1日のことです。関東一円、特に東京と横浜は、この地震によって壊滅的な被害を受けましたが、これを耳にした当時の国際ロータリー（RI）会長ガイ・ガンディカーは、お見舞いの電報とともに2万5,000ドルを、被害に遭っていない大阪RCを経由して送ってきました。

シカゴRC、サンフランシスコRC、ニューヨークRCをはじめ、各国の503のクラブからも続々と義援金が寄せられ、その総額は8万9,000円にも達しました。当時の会員たちは、そのような大金が世界中から送られてきたことに、とても驚いたでしょう。この出来事によって、当時の会員たちは、初めてロータリー運動の何たるか、ロータリークラブとはどのようなものなのかが理解できたと言われています。東京RCは、その義援金を、東京・横浜の小学校の再建や、被災者救護、殉職警察官遺族への援助などに使いました。さらに東京孤児院内に、新築1棟を寄贈して、「ロータリー・ホーム」と名づけました。

1995年1月17日に阪神・淡路大震災が発生した時、被災地には、国内各地からいち早く多くのロータリアンが駆けつけました。まだ電車が止まり、各地で道路が寸断されているなか、クラブでおにぎりや温かい食べ物を用意して、被災者が避難している学校や公園などで配ったり、自分たちの職業を生かして、倒れた墓石を立て直したり、鉄道の復旧作業をしたりしました。また、この地震で親を亡くした子どもたちの里親になり、支援したクラブもあります。

この時、国内の各クラブをはじめ、世界中から多額のお金が寄せられ、被災者が必要としている物資を購入して届けました。交通手段が確保できないなか、坂道の多い神戸で活躍したのがロータリーが送った原動機付き自転車でした。被災者の様子を確認したり、救援物資を運ぶのに大活躍をしました。また、神戸ではその義援金を元にして、「ロータリー子どもの家」と「ロータリー留学生

の家」が建てられました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災については、テレビで何度も放映された、津波の押し寄せる場面が目に焼きついている方も多いと思います。地震の恐ろしさは、この映像とともに瞬時にして世界中の人々に伝えられました。何か支援をしたい、お手伝いすることはないか、というメールが、世界中のロータリアンから、その日のうちに日本国内の多くのロータリアンに届けられました。

日本のロータリアンたちもすぐに行動を起こしました。道路が寸断されているにもかかわらず、食料や水、毛布など、緊急に必要なものを思いつく限りクルマに積んで被災地に駆けつけたロータリアンも少なくありません。被災者への支援活動は、時間の経過とともに少しずつ形を変えていき、物資だけではなく、心のケアに力を入れる支援が増えてきました。

世界中のロータリアンからロータリー財団を通して送られてきた寄付は約800万ドルにもなり、国内の会員からガバナー会に送られた寄付は約10億円になりました。このほか姉妹クラブや友好クラブを通じた海外からの送金、国内のクラブが日本赤十字社や地元の自治体を通じて行った寄付を合わせると、その金額は莫大なものになります。

東日本大震災では、家や事業所を津波で流されたロータリアンも大勢います。亡くなった会員、家族を失った会員もいます。しかし、自らが被災したにもかかわらず、全世界からの支援を確実に被災者に届けるため活動しています。支援はまだまだ必要です。ロータリーは、決して被災者の方々を忘れることはありません。

編集長 二神 典子

